

新しい駅南 のイメージだ。

バスロータリー（仮）の整備

肥後大津駅の南側敷地（約 4,000㎡）を町の玄関口にふさわしい交通拠点となるように、バスやタクシーの乗降場、自家用車駐車場や駐輪場などがある「バスロータリー（仮）」に整備します。この整備で鉄道とバスとの乗換えの円滑化、自家用車駐車場や駐輪場不足の解消などが図られ、肥後大津駅の交通拠点性がより高まるものと期待されます。

ビジターセンター（仮）の整備

バスロータリー（仮）の一角に、肥後大津駅の南口機能を併せ持つ観光交流施設（ビジターセンター（仮））を設置します。

施設には、観光案内・物産展示スペース、駅務スペースやトイレなどを設けます。デザインコンセプトは、宿場町の温かさと都市の機能性。木を用いた温かみのある雰囲気と吹き抜けで光が差し込むように明るい施設にしています。屋根には太陽光発電パネルを乗せ、地球環境にも配慮しています。

この施設が完成すれば、南側からも駅構内への出入りが可能になります。鉄道やバスを利用する際の利便性が向上するとともに、観光案内や物産展示を通じて利用者と地域との交流拡大による地域活性化が期待されます。

町の玄関は、 町の顔

肥後大津駅周辺整備 駅南側の完成イメージ

駅のこれまで

平成7年3月 「第4次大津町振興総合計画」に広域的な交通体系の整備推進のために豊肥本線の電化、空港シャトルバス運行などに取り込むことを記載

平成11年10月 豊肥本線の熊本駅～肥後大津駅間が電化

平成18年3月 「第5次大津町振興総合計画」に肥後大津駅を中心とした交通体系を確立するため、肥後大津駅周辺の整備、空港アクセスの向上などに取り組むことを記載

平成19年3月 都市再生特別措置法に基づき肥後大津駅周辺550㌫を対象地区に「都市再生整備計画（平成19年度～平成23年度）」を策定し国土交通省に提出。同省から交付金の交付通知を受ける

平成19年4月 都市再生整備計画に基づく各事業を開始

平成20年10月～11月 熊本県が肥後大津駅～阿蘇くまもと空港間のシャトルバス試験運行を実施

平成21年3月 九州運輸局の「JR豊肥本線を活用した阿蘇くまもと空港へのアクセス改善方策に関する調査報告書」で、肥後大津駅を起点とした空港シャトルバスは空港アクセス手段の選択肢の一つとして有効な施策と結論づけられる

平成21年10月 肥後大津駅周辺整備に関する町民アンケート調査を実施

【回答結果】・問題点…南側改札口がない、

送迎用停車スペースが不足 など

・早期整備を望むもの…南側改札口の整備、駅の多機能化 など

平成21年11月 大津町まちづくり推進協議会からまちづくりに関する提言

【提言内容】駅前広場を「町の顔・玄関口」としてのおもてなしエリアに など

平成22年2月 町議会全員協議会で肥後大津駅周辺整備の整備内容を表明

平成22年3月 阿蘇くまもと空港地域活性化協議会の「阿蘇くまもと空港地域活性化構想」で、肥後大津駅は益城熊本空港インターチェンジとともに空港の玄関口として位置付けられる。空港アクセスの利便性向上のため、空港シャトルバスの整備などに取り組むことが記載される

平成22年10月～平成23年3月 熊本県が肥後大津駅～阿蘇くまもと空港間のシャトルバス試験運行を再実施

駅のこれから

平成23年1月～2月 バスロータリー（仮）・ビジターセンター（仮）の工事着工

平成23年3月 九州新幹線全線開業、豊肥本線に快速「豊肥ライナー」運行開始

平成23年4月 豊肥本線に観光特急「あそばーい」運行開始

平成23年9月 バスロータリー（仮）・ビジターセンター（仮）の工事完了

平成23年10月 バスロータリー（仮）・ビジターセンター（仮）の供用開始、ねりんピック2011熊本開催